

令和7年度主な地域密着型研究課題

試験研究期間	No.	研究課題名	研究期間	備考
農業技術センター	1	水稻の多様なニーズに応えるオリジナル品種の育成 ・県産米に対する生産者並びに実需者の多様なニーズに応えられる水稻（主食用、酒造好適米）新品種の育成を行う。	R4－R8	
	2	気候変動に適応する小麦高品質安定生産技術の開発 ・晩播対策の強化、一発施肥体系の再構築、カリの施肥基準の設定を行う。	R4－R8	
	3	カーボンニュートラルを目指すバイオ炭農法の確立（外資） ・本県の土壌・気候条件等に適した水稻、野菜等でのバイオ炭農法の確立を図る。	R5－R9	
	4	新たな価値を創造するブランド花きの育成 ・本県の花き生産の維持・競争力強化を図るため、特徴である少量多品目生産に適した新品種・品目を育成する。	R7－R11	
	5	地域資源を活用した環境にやさしい循環型鉢物栽培の確立 ・地域で生産している堆肥や土壌改良材の炭等を活用したピート削減培土の利用技術を開発するとともに、非プラスチック化を可能とする施肥管理技術を開発する。	R5－R7	令和7年度 終期
	6	県育成イチゴ品種の障害果発生を抑制する栽培技術の確立 ・産地の課題となっている障害果の発生要因を明らかにし、発生を抑制する技術を確立する。	R4－R8	
	7	自殖系統を活用したイチゴの新品種育成 ・自殖系統を活用した手法を取り入れることで求める形質を発現させやすくし、選抜育成のスピードアップを図ること で、迅速な新品種の育成を目指す。	R6－R10	
	8	食品ロス軽減のためのカキ果実の日持ち性AI判定装置の開発（外資） ・軟化判別を可能とする選果技術および日持ち性判定装置を開発する。	R6－R7	令和7年度 終期
	9	誰でも使える果実の熟度・障害果判定技術の開発と普及（外資） ・カキの早期軟化果実の混入防止対策として、音響振動応答と早期軟化の関連性を解明し、選抜段階などで早期軟化判 方法を確立する。	R6－R8	
	10	冬春キュウリの持続可能で省力的な防除体系の確立 ・新機能を搭載した防虫ネットの有用性を検討するとともに、防虫ネットや薬剤検定で高い効果を示す剤を併用した新 しい防除体系を組み立て、省力的で効果的な防除法の開発を目指す。	R7－R9	
	11	イチゴ栽培の農薬と天敵のベストミックス防除体系の確立 ・イチゴにおいて、天敵製剤を効果的に使用する技術の確立と、各種害虫に対する化学農薬の薬剤抵抗性の現況把握を 行い、化学合成農薬の使用量低減につながる害虫防除体系を確立する。	R6－R9	
中山間農業研究所		モモ、リンゴ等の生産安定技術開発と品種選定 1・「ひだ国府紅しだれ」の改良育苗体系を開発するとともに、新たな台木を育成する。リンゴでは、雪に強い新仕立て 法について検証する。さらに、モモとリンゴの新品種について飛騨地域への適応性を評価する。	R4－R8	
	2	クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発（一部外資） ・実需のニーズに適した新品種等の育成に取り組むとともに、県育成品種の安定生産のための栽培技術を開発する。ド ローンやAIなどを活用し、生育情報を効率的に高い精度で提供する手法（DX化）を確立する。	R4－R8	
	3	スマート技術向けの特性を持つ果樹品種の開発（外資） ・クリの機械収穫体系による新たな生産基盤技術を確立するため、機械収穫に適したイガ落ち性に優れる品種、系統の 選抜並びに収穫機械の導入効果を最大限発揮するための栽培技術を開発する。	R6－R7	令和7年度 終期
	4	多様なニーズに応える中山間地の花き育種と栽培技術の開発 ・鉢花では、黄根系シクラメン、耐寒性宿根草等の新品種育成、シクラメンの高温耐性品種の選抜や高品質化、低コス ト化技術を開発する。切花では、トルコキキョウの品種比較を行う。	R7－R11	
	5	中山間地域における果菜類の安定生産、コスト低減技術の開発 ・夏秋トマト「麗夏」の出べそ果の発生要因を明らかにし、出べそ果の発生を抑えることが可能な技術を確立するとと もに、育苗に関わる人件費を削減する技術の開発を行う。また、夏秋ナスの3Sシステムでのコスト低減および現在の施 肥体系の代わりとなる技術の開発を行う。	R6－R10	
	6	夏ホウレンソウにおける化学農薬のリスク換算を考慮した萎凋病防除基礎研究 ・夏ホウレンソウ最大の土壌病害である萎凋病を考慮しながらキルバーを有効に活用することに加え、同菌の抑制が示 唆される土壌pHの矯正を組み合わせ、「クロルピクリン燐製剤」の使用を減らす体系を開発する。	R5－R7	令和7年度 終期
畜産研究所	1	非分解性蛋白質の早期給与が牛枝肉成績に及ぼす影響（一部外資） ・育成期に非分解性蛋白質の給与を開始し、それによる枝肉成績への影響を検証する。非分解性蛋白質およびバイパス アミノ酸の適切な給与開始時期を明らかにする。	R3－R8	令和8年度 終期
	2	飛騨牛におけるゲノム育種手法の活用 ・飼料価格の高騰や365日を超える平均分娩間隔といった課題に対応するため、飼料利用性や繁殖性に関する形質につ いてゲノミック評価方法を開発する。また、改良速度の向上のため、受精卵でのゲノミック評価方法を確立し、優良 種雄牛造成手法を確立する。	R5－R7	令和7年度 終期
	3	凍結精液の受胎率予測法の確立 ・凍結精液を用いて人工受精後の受胎率を予測するための検査法の検討を行う。	R6－R8	
	4	飼料用稲の利用拡大に向けた早期刈り取りに関する研究 ・黄熟期より早期に刈り取ることで生じる栄養成分の変化や発酵品質に及ぼす影響を調査し、早期刈り取りの稲WCSの 利用性について検討する。	R7－R9	
	5	乳用未經産牛における効率的な経腔採卵技術の開発研究 ・未經産牛の経腔採卵および対外胚生産法を検討し、採卵数を高めることで、岐阜県のホルスタイン改良スピードの向 上を図る。	R6－R8	
	6	抗病性指標の評価を活用した健全養豚実現体系の構築（外資） ・免疫機能を向上させるイムノバイオティクス（乳酸菌等）と、抗病性と関連する遺伝子型を持つ種豚とを融合させた 生産方法の確立を目指す。	R4－R8	
	7	次世代型の豚遺伝資源保存技術の開発 ・廃棄されている低品質卵子上に卵丘細胞を凍結粉碎し、細胞内成分をろ液として添加することで高品質卵子と同等の胚 盤胞形成率を得る培養技術を確立する。	R6－R9	
	8	養豚業における抗菌薬の使用量を低減する新たな飼養管理技術の開発 ・肥育豚の離乳期以降の発育ステージにおいて、抗菌薬の使用量を低減した新たな飼養管理技術を確立する。	R3－R8	
	9	高・低病原性鳥インフルエンザ等の危機管理に対応する遺伝資源保護技術の確立 ・鶏遺伝資源を守る各種技術について、比較検討および危機管理のための技術確立を行う。	R4－R8	
	10	高能力な肉用奥美濃古地鶏原種鶏群の維持・改良に関する研究 ・肉用奥美濃古地鶏の能力について、岐阜県家畜改良目標の数値を達成するための育種改良を行う。また、飼養管理マ ニュアルを更新する。	R7－R9	
水産研究所	1	気候変動が与えるアユの産卵時期および仔魚流下時期への影響に関する研究（一部外資） ・アユの産卵および仔魚流下の時期（ピークや多様性）を把握し、遡上アユ資源の保全策や気候変動への適応策を検討 することにより、持続的利用を推進する。	R5－R7	令和7年度 終期
	2	サツキマス資源増殖のための基礎研究 ・近年漁獲量が減少しているサツキマスの減少要因を調査するとともに、天然サツキマス親魚養成の方法およびアマゴ 半野生魚生産方法の検討を行う。	R5－R7	令和7年度 終期
	3	観光現場のニーズに沿った在来イワナ等を活用した養殖種苗の開発研究 ・イワナを素材とした特色ある地の魚の開発、刺身用食材としての全雌三倍体イワナの開発およびマス類優良系統の育 種と種卵生産技術の改良を行う。	R6－R10	